

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語の方言における敬語の使用と機能について
Author(s)	ソマン, ムルンマイ
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 35期 : 1 - 11
Issue Date	2020-10-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050138
Right	
Relation	



日本語の方言における敬語の使用と機能について

ソマン・ムルンマイ

1. はじめに

日本語の方言は各地域によって多様に存在し、日本全国で利用されている。方言によって幾つかの表現も変わる。従って、方言には敬語が存在することに知識のない外国人が多い。方言が違うことによって敬語も異なる。標準語以外に目を向け、様々角度から観察するによって、日本語について、より深く理解できると考える。そのため、発表者の母語であるマハラシュトラ州のマラティ語には存在しない日本語の特徴について研究する。上述したことをアンケート調査・分析や参考文献などによって明らかにしていきたいと思う。

2. 問題と目的

「日本語における敬語の使用と機能」について検討する。標準語の敬語と方言にある敬語を比較し、現代に至るまでの使用を詳しく調べる。現代の若者が利用している方言敬語にはどういった背景があるのかまたは、どのような場面で利用されるかを明らかにすることを目的とする。

3. 先行研究

藤原与一「方言敬語法の研究」第一巻（藤原，1978a）及び藤原与一「方言敬語法の研究」第二巻（藤原，1978b）では、各地方で使われている方言敬語について説明されている。

以下にその事例を示す。

広島県では、

○ニーサマー イマドコイ イッチョラレマス
兄ちゃんは今どこへ行っておられますか。

のような、「レ(エ)ル・ラレ(エ)ル」がよく使われている。また、

○アンタ ソレオ キクチューテ オシラレマスカラ ノー。
あなたがそれを聞くっておっしゃられますからね。

のような「オシラレル」（仰せられる>おっしゃられる）の慣用がある。そして、

○ドコイ イケマス ケ。
“どこへ行かれますか。”

のような「エル・レル・ラレル」が、広島地方では日常的に使われている。

～ヤレ

広島県下では

- イップク スヤーレー。
一服おつきよ。
- コッチー キヤレ。
こっちへおいでよ。
- ヤチモナー コトー シャール ノー。
つまらないことをしなさるね。

などと言われる。そして、「ヤーレー」という言葉も見られる。

～ソス・サイス

- コイビヤー エイガイ イカイス カイ。 イカイセン カイ。
今夜は映画へお行きかね。 お行きではないかね。

～ナハル。～ンサル

「ナハル」言葉はよく命令形として使われている。全般に良い言葉とされている。

- ハヨ ソコー ノキンサイ ヤー。

「方言敬語法の研究2」藤原与一によると、方言敬語に以下のバリエーションがみられる。

イタシイタス

広島では、「イタシイタス」という言葉づかいがみえる。

- オー コリヤ ナガバナショシテ ヒツレイ イタシイタソ ガ。
おーこれは長話をして失礼いたしました。
(これが「海島民俗誌」にみられる。

サンジマス

これは広島県下と岡山県下でみられる。挨拶の言葉として「遠慮なしに、参じました」また「参じます」という。

また、藤原与一「方言敬語法の研究」第一巻によると、岡山では、広島と同様「～レ・レル」は見られない。そして、岡山県下だけ、「レー・ラレ」の命令形があるのが特徴的だ。また、きやすさの敬意法「～レル・ラレル」には「ハヨ イカレー。」「ヤメラレー。」などの少し敬意を込めた言い方があり、特に男性が使用している。

～ンス

岡山県には命令形の「サレー」や「ゴザラッシャル」がある。岡山県本土部では、一つ、東南隅が注目されている。日生という所などでは、「メシークワンセー（タバサンセー）。」

などと、「ンセ・サンセ」の命令形がかなり使われている。県の西北辺にも「ンス・サンス」などの言葉がある

○ウン、ソコデ ヤカンス カ。
ううん、そこでおやきかね

○ドコイ イカンシャー
どこへお行きかね。

～ンサル

岡山県下では対人敬意表現には普通、「～ンサル」と使われている。

○ハヨー ウェーテンシエアー
早くおいでなさいよ

などが使われる。通常は、「オ行きンサイ」と使わず、「オ」なしで、「行きンセアー」と言う。

～ヤル

全般的に「ヤル」言葉は心安い人に向かって使われており、「ンサル」の言い方よりは格の低いものとされている。女の人もよく言っていたという。岡山県では、奥の作州のほぼ全域で、比較的好く「～ヤレ」がみられる。

○ヨー キヤッタ ノー。エラカッタ ノー。
よく来なさったね。大変だったね。

○ヒサシブリー アガリヤッタ ノ。
久しぶりに上がりなさったね。

4. 研究方法

方言敬語が地方によって異なることについて文献を参考に概観した。これらの文献では、各地方でアンケート調査が行われ、アンケート結果に基づいてそれぞれの地方の方言敬語の傾向を説明している。本研究においても先行研究に従い、敬語に関するアンケート調査を行った。特に、日本語の方言における敬語の使用に着目して研究した。

4.1 対象者の職業

1. 日本人の大学生
2. 社会人
3. 保育士
4. 主婦

4.2 対象者の年齢

表 1

対象者の年齢				
10-20 歳	21-30 歳	31-40 歳	41-50 歳	51-60 歳
2 名	7 名	1 名	1 名	1 名

*アンケートから 40 名の回答が得られたが、本研究の対象となる広島方言話者は 12 名だったため、12 名を分析の対象とした。

4.3 アンケート調査と分析

日常会話で利用されている「方言の敬語」のいくつかの事例を与え、それらの現代における利用度を明らかにするためにアンケートへの回答を求めた。

4.4 対象地域

1. 広島県
2. 岡山県

アンケート調査の結果と内容を以下に示す。

- － 1. どんな日本語の方言（何弁）を知っていますか。

■ 広島弁 ■ 岡山弁 ■ 関西弁 ■ 九州弁 ■ 京都弁 ■ 沖縄弁

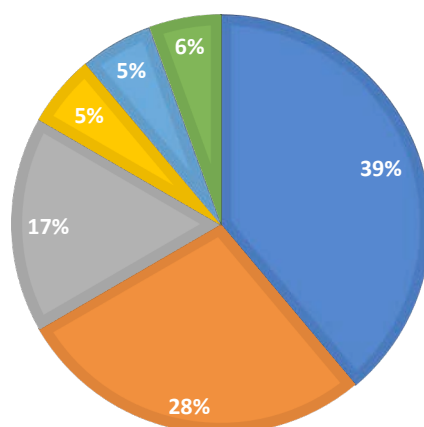


図 1 知っている方言

調査の結果によると、12名の対象者のうち、39%が広島弁を知っていると回答した。それに加え、28%の方は岡山弁を知っていて、よく利用していることがわかった。また、17%が関西弁を、5%が九州弁を、5%が京都弁を、6%が沖縄弁を知っていた。

- 2. 方言にも敬語があることを知っていますか。

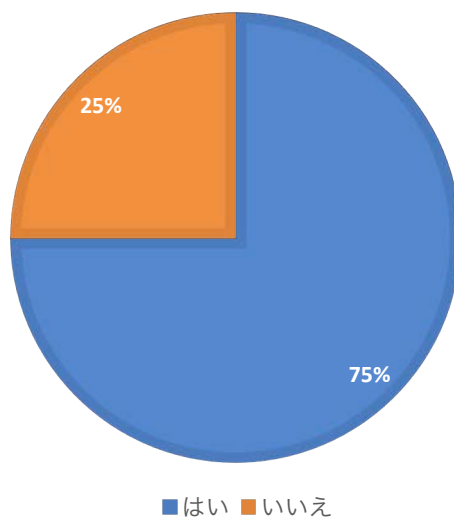


図2 方言敬語にある認識

現代の若者の方言敬語の認識についての質問に対し、回答者のうち75%が方言敬語の知識を持っていた。一方、25%が知識がないと答えた。

- 3. あなたは、「方言の敬語」は現代でも利用されていると考えますか。

- a. はい、非常に利用されていると思います。
- b. あまり利用されていないと思います。
- c. 全く利用されていないと思います。

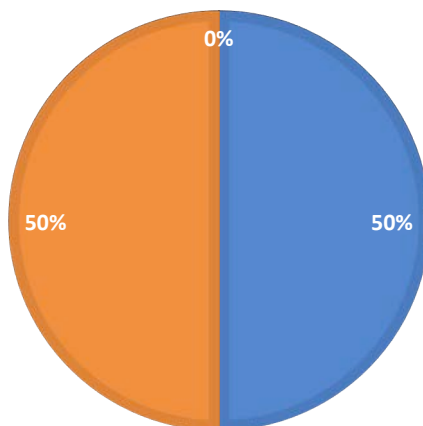


図3 方言の敬語の利用度

調査によると、現代「はい、非常に利用されていると考える」という回答が 50%だった。一方、全く利用されていないという回答は 50%であった。他方、あまり利用されていないと思っている回答はなかった。

－ 4. 最近、聞いたことがある「方言の敬語」にどのようなものがありますか。（例：いつ広島に来られたの。）

この質問では、広島弁の敬語の傾向が見られた。以下の表現は現代によって利用されている表現であり、若者が使用する表現である。

- 先生が来ちゃった。
- 先生はついらっしやいましたか。

これは広島弁の一つ。

- いつ広島に来ちゃったん。
- いつ広島に来られましたか。

- どこにおっちゃったんですか。
- どこに住んでたんですか
- どこにいらっしやったんですか。

「どこにおっちゃったんですか」という表現はふたつの意味があり、場面によって違う。それに加え、「そこにおられる先生」、「先生おられますか」、「何をしとられるんですか」という表現も多く見られた。

－ 5. 敬語は学校で学びますが、「方言の敬語」はどのように身につけましたか。

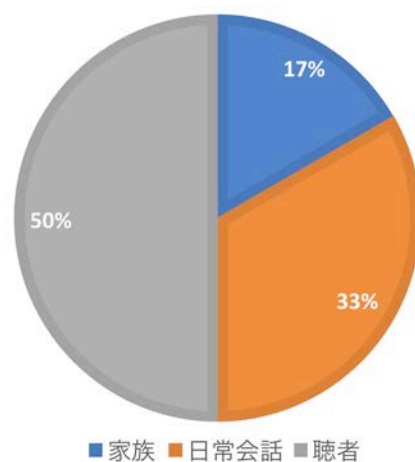


図4 方言敬語の学び方

50%は親や祖父が使っている方言の敬語を聞いて身につけたという。あるいは、田舎に住んでいる、つまり自分の地元に住んでいるお年寄りから聞き、話せるようになった。そして、現在も使用している。また、33%の人は、日常生活で使いながら身につけ、17%の人が友達や周りの人から聞いたことによって学んだ。などの回答が得られた。

- 6. 日常生活で敬語を使うとき、標準語の敬語を使いますか？それとも「方言の敬語」を使いますか？（例えば、自分が通っている学校の先生に対してなど）

■標準語の敬語 ■方言の敬語 ■両方

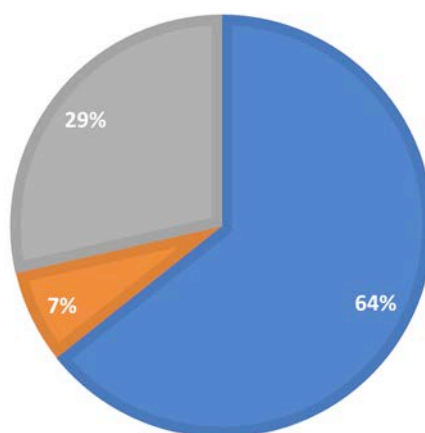


図5 方言敬語の学び方

「自分が通っている学校の先生に対して」という場面で 90%の人は標準語の敬語を利用することが分かる。また、回答者のうち 10%が方言の敬語を使ってもよいという意見を持っていた。また、29%が、場面によって言葉選びが異なると述べた。例えば、方言の敬語は地元のお年寄りに対して使うと答えた。また、親しい年上の人には方言の敬語を使うことがある。その他の目上の人には標準語と方言敬語が混じった話し方という意見も出た。方言で話す年配のお客さんにはたまに方言の敬語を使う人もいる。よって、方言の敬語の使用は多いとは言える。

- 7. 以下の広島方言にある敬語の言葉の中で聞いたことがあるものがありますか。

今回行った調査の対象者のうち広島出身の回答者 100%が、「どこへ行かれますか」という方言敬語の表現をよく使っていると考えられる。他の表現が使われていないというわけではないが、現在使う機会が少なくなっていると言える。

- 8. 方言にある敬語の言葉の中で聞いたことがあるものを自由に書いてください。

回答者から出された方言の敬語は以下の通りである。

- いつ行っちゃったんですか。
○いついらっしゃいましたか。
- 来ちゃった
○来られました。
- されちゃった
○されました
- 来てです
○「もう、」来られています
- 行ってです
○「もう、」来られています。
- 座ってつかあさい
○座ってください
- しとられる
○しておられます
- ～されとる(例:行っとられる、見とられる)
○されております。

- 9. 友達同士でもし広島弁を使って気持ちを伝える・話すならどのような敬語の言葉を使いますか。(例: <どんな場面>注意する場面、<どんな言葉>つまらないことをしなさるね)

回答した調査協力者からは、そもそも敬語を使わないという意見も出てきた。一方で、皮肉を言う時や、忙しいときに友達1から友達2の様子を聞かれて2が何をしているか伝えるとき「窓の掃除をしとられる」「凝った料理を作っとられる」と言うそう。また、「～したら？」と言う際に「～しんさい」や「～しんちやい」などを使っているとのことだ。それだけではなく、相手にいい加減に〇〇について行動をとって欲しいときに「もう、そろそろ〇〇しんさい。」と表現する人もいる。

- 10. 敬意を示すとき、標準語の敬語と「方言の敬語」、どちらを使いますか。(例えば、友達に冗談・皮肉として偉そうな感じで呼ぶ場合)

■標準語の敬語 ■方言の敬語

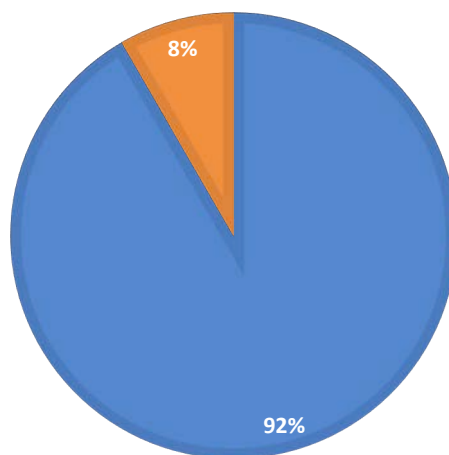
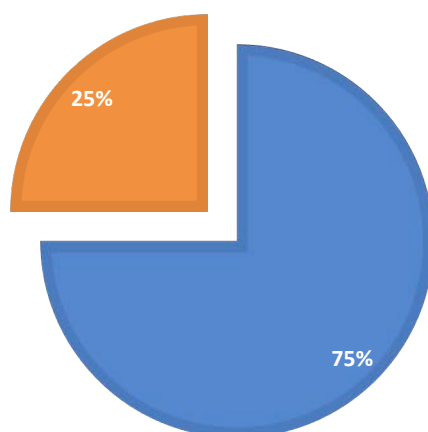


図6 敬意を表す場合

回答者のうち92%が日常的に、敬意を表す際、標準語の敬語を利用する。しかし、中には場合によって方言の敬語を使う人もいる。例えば、親しいお年寄りに対し、方言の敬語は敬意が高いと考えている一方で、回答者のうち8%が普段、方言の敬語を使うという調査結果が得られた。

- 11. あなたは現代でも「方言の敬語」を使ったほうがいいと思いますか。



■はい、面白いので使ってもいいと思います。

■覚えにくいのであまり使わなくてもいいと思います。

図7 方言の敬語の利用に関

75%が面白いので利用したほうが良いと答えた。一方で、敬語に方言があることを意識したことはほとんどないという理由で25%があまり使わなくても良いと答えた。

5. 結果と考察

- ❖ アンケート調査によってわかったことは、人々は今でも意識せず、改まった場面で方言敬語を使ってしまう時があるということである。例えば、会社の社員同士や課長と部長の関係などでは、方言敬語を使ってしまう。話していることが方言の敬語であることをわからず言ってしまうということだ。このことから、現代でも自然に方言敬語を使っていることが明らかになったと言えるだろう。
- ❖ 今回行った調査によると、方言敬語を現在使っている人は多く、ときにより、改まった場面でも使用していることがわかった。特に、この方言の敬語は友達同士、家族の中で使われている。毎日のように、男女がよく利用している。
- ❖ 相手によって使用方法が変わる。親しくなりたい、比較的歳が近い相手や、子どもに対して積極的に方言の敬語を使うといい。
- ❖ 出身地の方言が異なるにも関わらず、お互いに方言の知識を持っているため、日常会話でよく利用されている。しかし、方言敬語を使ってもいい、あるいは使わないほうがいいなどあいまいな意見も出た。その理由としては、現在も利用されていることにあまり気づいていないため、利用が少ないことがあげられる。一方、日本語の大きな部分であるため使ってもいいとも考えられているようだ。
- ❖ 標準語の影響が大きいため、会社やアルバイト先など、改まった場面では、標準語が利用される。一方、友達同士や家族で冗談や皮肉として使う場合も少なくない。昭和時代の表現が時代の変化によって消えつつある。しかし、幾つかの表現については周りのお年寄りから聞き、今でも知られている。

6. おわりに

私自身、幼い頃から地方の方言を使用してきたのだが、地元の人にとっては自然と身に付いている一方で、それ以外の表現がわからない場合も多いため、使いにくい。年配の人と話す際、方言の方がより親しみを覚えやすい感じで話すことができるため、方言の敬語も使えたほうがいだろう。また、地元の友達や先輩と話すときは方言の方が話しやすく、親密になれるのでそういった場面でも使えばよいと考える。その地域の方言は適切に使っていいと思う。ただし、その方言を他の地域で使うと、意味が通じず、かえって失礼と考えられる可能性もある。敬語は相手に伝わらなければ単なる自己満足になってしまうだろう。本研究の結果をふまえて、大学生活のさまざまな場面で学生同士でも気持ちが伝わらないこともあるため、相手を選んでいくつか敬語の種類を使い分けることが必要だと考える。

参考文献

藤原与一 (1978) a 「方言敬語法の研究」 第一巻

藤原与一 (1978) b 「方言敬語法の研究」 第二巻

末岡実 (2016) 「正しい敬語」

現代敬語の使い方 2009年5月2日

<https://junkai4212.hatenadiary.org/entry/20090512/1242122670>